

病害虫発生予報 第5号

富山県農林水産総合技術センター所長

8月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稻	いもち病（穂いもち）	やや少ない	—	野菜	白ねぎのさび病	やや多い	—
	紋枯病	やや多い	—		白ねぎの黒斑病・葉枯病	やや多い	—
	ごま葉枯病	やや多い	—		白ねぎのネギアザミウマ	並	—
	斑点米カメムシ類				白ねぎのネギハモグリバエ	やや少ない	—
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	やや少ない	—		白ねぎのシロイチモジヨトウ	やや少ない	—
	アカスジカスミカメ	並	—		アブラムシ類	やや少ない	—
	トゲシラホシカメムシ	少ない	—		ネキリムシ類	並	—
	ニカメイガ（第2世代）	やや多い	—		果樹	果樹のカメムシ類	やや少ない
	ツマグロヨコバイ	少ない	—	リンゴの褐斑病		やや多い	—
	ヒメトビウンカ	並	—	リンゴの斑点落葉病		少ない	—
セジロウンカ	少ない	—	リンゴのハダニ類	やや多い		—	
トビイロウンカ	少ない	遅い	ニホンナシの黒星病	並～やや少ない		—	
イネアオムシ	少ない	—	ニホンナシのナシヒメシンクイ	やや多い		—	
大豆	葉焼病	並	—	ニホンナシのハダニ類		やや多い	—
	紫斑病	並	—	ブドウのべと病		並	—
	ウコンノメイガ	並	—	カキ（三社）のフジコナカイガラムシ		並	—
	フタスジヒメハムシ	少ない	—	モモのモモハモグリガ		少ない	—
	アブラムシ類	少ない	—	花き 球根	きくの黒斑病・褐斑病	少ない	—
	ハスモンヨトウ	少ない	—		アブラムシ類	やや少ない	—
	大豆カメムシ類	やや多い	—		タバコガ類	並～やや少ない	—
	ハダニ類	やや多い	—		ネキリムシ類	並	—

I 水 稲

1 いもち病（穂いもち）

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 7月20日調査の発病株率は0%で、平年（0.0%）並に少なかった。
- ・ 8月の気温は平年並か高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 防除指針 30～31 ページ参照

2 紋枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 現在の水稻の生育は茎数（穂数）がやや多くなっている。
- ・ 8月の気温は平年並か高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 27～28ページ参照

3 ごま葉枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 近年の発生が多くなっている。
- ・ 8月の気温は平年並か高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ 適切な水管理の励行等により稲体活力の維持に努める。
- ・ 防除指針 32 ページ参照

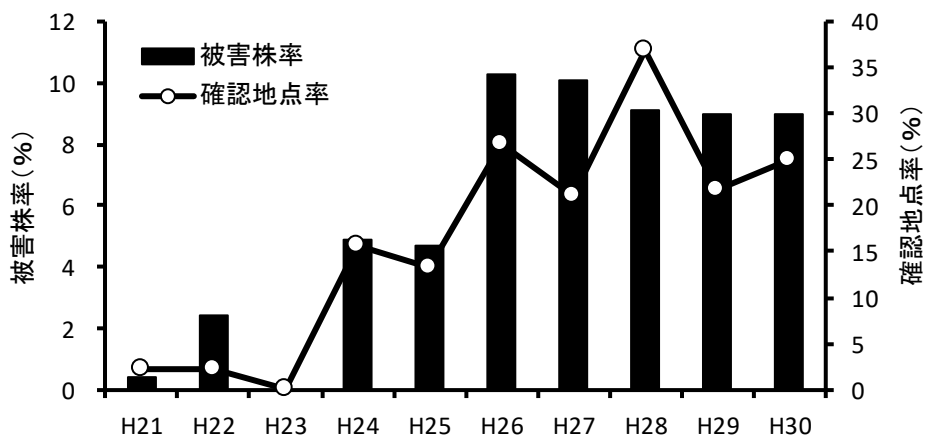


図1 ごま葉枯病の被害株率の年次推移(9月5日調査)

4 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は1.1頭で平年（3.6頭）より少なく、確認地点率も40%で平年（48%）よりやや低かった。

(3) 防除対策

- ・イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の好適な餌となるので、草刈りの後も穂が出ないように管理する。やむをえず穂が出ている雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行く。
- ・斑点米カメムシ類は水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草管理を徹底する。
- ・てんたかく等の早生品種は、穂揃期と傾穂期の2回の基本防除を確実に実施する。また、コシヒカリ等の中生品種および晩生品種では、穂揃期の防除を徹底する。
- ・防除の際には、畦畔にも薬剤がかかるようにする。
- ・近隣に雑草地や麦あと不作付地がある水田においては、斑点米カメムシ類の発生が多くなるので防除を徹底する。
- ・散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は、追加の防除を実施する。
- ・防除指針 40～41ページ参照

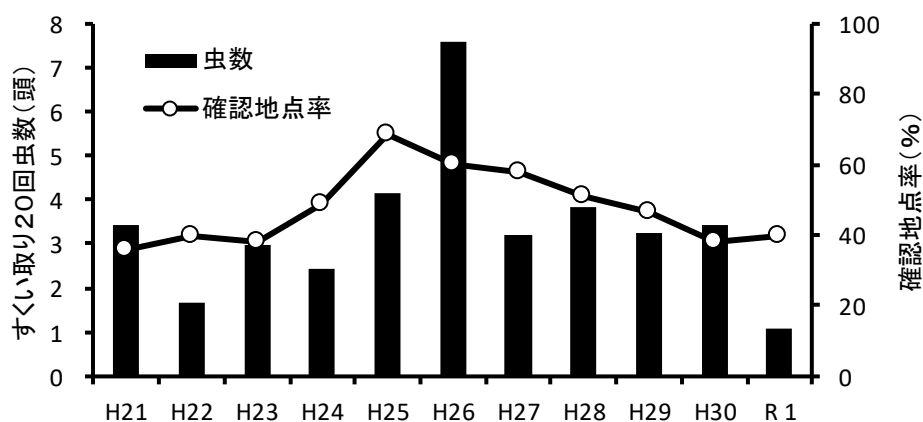


図2 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

5 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は1.2頭で、平年（1.7頭）よりやや少なかったが、確認地点率は27%で、平年（21%）よりやや高かった。

(3) 防除対策

- ・アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・防除指針 40～41ページ参照

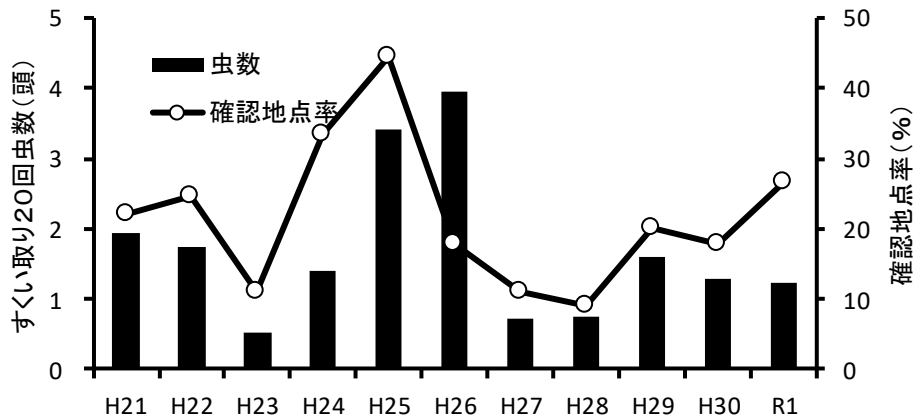


図3 アカスジカスミカメの蛙畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

6 斑点米カメムシ類 (トゲシラホシカメムシ)

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 7月20日調査の蛙畔・雑草地のすくい取り虫数は0.04頭で、平年(0.21頭)より少なく、確認地点率も4%で平年(15%)より低かった。

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・ 防除指針 41ページ参照

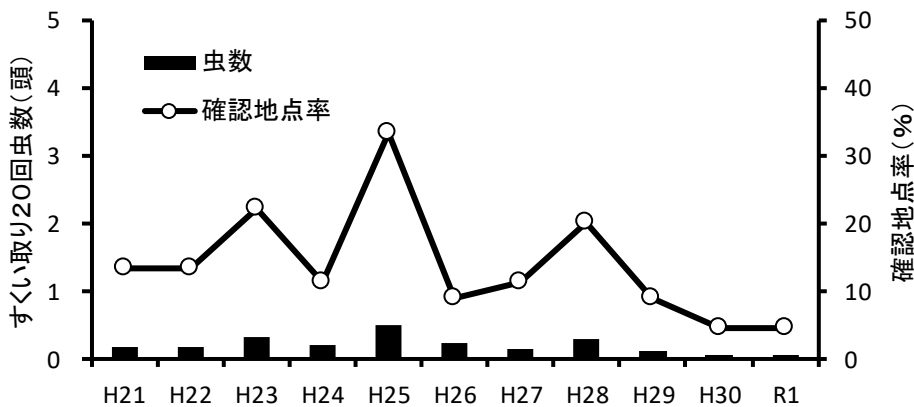


図4 トゲシラホシカメムシの蛙畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

7 ニカメイガ (第2世代)

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 7月20日調査の被害株率は1.7%で、平年(0.8%)よりやや高かった。
- ・ 予察灯における第一回成虫の総誘殺数は71頭で、平年(25頭)より多かった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 35～36ページ参照

8 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 7月20日調査の確認地点率は4.4%で平年（13.6%）より低かった。

- (3) 防除対策
・ 防除指針 37ページ参照

9 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は3.1頭で、平年（3.4頭）並であった。

- (3) 防除対策
・ 防除指針 38～39ページ参照

10 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は本年0.2頭で、平年（1.5頭）より少なかった。

- (3) 防除対策
・ 防除指針 38～39ページ参照

11 トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：遅い

- (2) 予報の根拠

【少発・遅発要因】

- ・ 現在、発生は確認されていない（平年の初発は8月1日）。

- (3) 防除対策
・ 防除指針 38～39ページ参照

12 イネアオムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は0.0頭で、平年（0.4頭）より少なかった。

- (3) 防除対策
・ 防除指針 39ページ参照

Ⅱ 大豆

1 葉焼病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 52 ページ参照

2 紫斑病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・ 2回の基本防除（8月2～3半旬と4～5半旬）を徹底する。
 - ・ 防除指針 52 ページ参照

3 ウコンノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 7月25日調査の被害株率は14.5%で、平年（12.8%）並であった。
- (3) 防除対策
 - ・ 播種時期が早く、生育が旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発するので注意する。
 - ・ 7月6半旬に幼虫による葉巻の発生量を確認し、防除が必要であれば、8月上旬まで（若・中齢幼虫期）に遅れず実施する。
 - ・ 防除指針 53 ページ参照

4 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ 7月25日調査の払落虫数（1条1.8m間）は0頭で、平年（0.06頭）より少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・ 払落調査を行い、ほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期に防除する。
 - ・ 防除指針 55 ページ参照

5 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】

・7月25日調査の寄生株率は0%で、平年(0.4%)並に低かった。

(3) 防除対策

・防除指針 54 ページ参照

6 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・フェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数は37頭で、平年(102頭)より少なかった。

(3) 防除対策

・防除指針 55 ページ参照

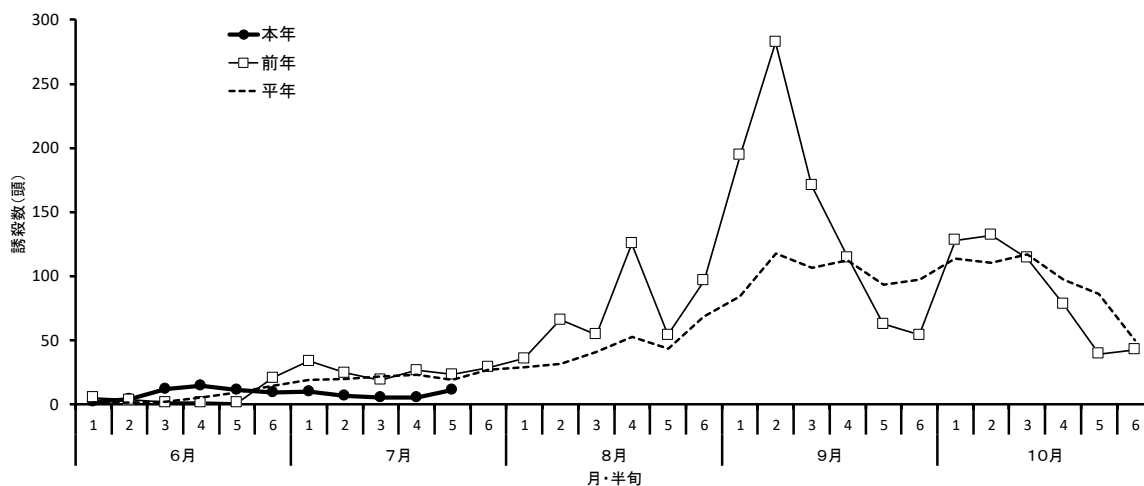


図5 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

7 大豆カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・前年の発生量がやや多かった。

(3) 防除対策

・多発が懸念されるほ場では、開花期頃からはほ場周辺部を中心に払い落とし調査を行い、発生が見られたら防除する。

・防除指針 54 ページ参照

8 ハダニ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・8月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・発生がみられたら薬剤防除を実施する。その際、薬剤が確実に葉の裏にかかるよう留意する。
- ・防除指針 53 ページ参照

Ⅲ 野菜

1 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・7月25日調査の発病株率は25.0%で、平年(14.5%)よりやや高かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 109 ページ参照

2 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・7月25日調査の発病株率は12.8%で、平年(9.7%)よりやや高かった。

(3) 防除対策

- ・無理な土寄せを避け、他の病虫害防除を徹底するなど、葉先枯れの防止に努める。
- ・防除指針 110 ページ参照

3 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・7月25日調査の被害株率は32.0%で、平年(48.7%)よりやや低かったが、8月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・防除指針 111～112 ページ参照

4 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・7月25日調査の被害株率は8.8%と平年(19.2%)よりやや低かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 111 ページ参照

5 白ねぎのシロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる6月6半旬～7月5半旬の誘殺数は35頭で、平年(48頭)よりやや少なかった。

- (3) 防除対策
・防除指針 112 ページ参照

6 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
(2) 予報の根拠

- ・アブラムシ類有翅虫の7月1半旬～5半旬の黄色水盤への誘殺数は212頭で平年(274頭)よりやや少なかった。

- (3) 防除対策
・防除指針 80～147ページのアブラムシ類の項参照

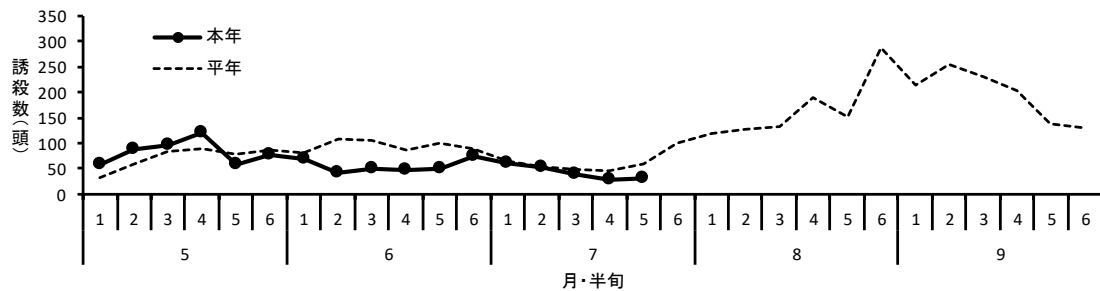


図6 アブラムシ類の黄色水盤トラップ誘殺数推移

7 ネキリムシ類 (タマナヤガ、カブラヤガ)

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠

- ・タマナヤガのフェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数は36頭で、平年(36頭)並であった。
- ・カブラヤガのフェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数は102頭で、平年(106頭)並であった。

- (3) 防除対策
・ほ場周辺の雑草は、播種・定植前に刈り取る。
・定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
・防除指針 82～144 ページのネキリムシ類の項参照

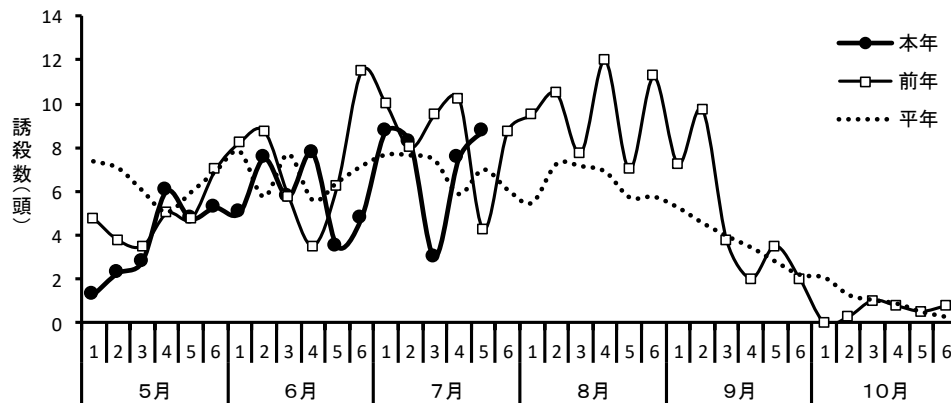


図7 タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

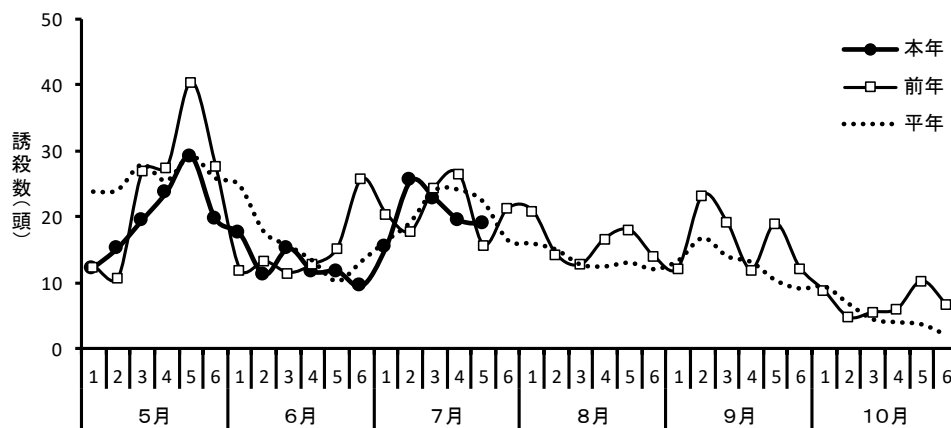


図8 カブラヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

IV 果 樹

1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発 生 量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる6月5半旬～7月4半旬のチャバネアオカメムシの平均誘殺数は3.4頭で平年（11.6頭）よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・園内への飛来が確認された場合は、速やかに防除を実施する。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針 リンゴ152, 156, 159ページ、ニホンナシ167, 170ページ、カキ180ページ参照

2 リンゴの褐斑病

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。
- (3) 防除対策
- ・防除指針 152～154, 158, 159ページ参照

3 リンゴの斑点落葉病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
- 【少発要因】
- ・前年の発生量は少なく、これまでの発生量も少なかった。
- (3) 防除対策
- ・高温多雨で発生が急増しやすいので、今後の発生に注意して防除を実施する。
 - ・防除指針 152～154, 158, 159ページ参照

4 リンゴのハダニ類（ナミハダニ）

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- 【多発要因】
- ・これまでの発生量は少ないが、8月の気温は平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
- ・草刈り後に防除を実施する。徒長枝を切除する等、薬剤到達性を向上させる。
 - ・高温で発生が急増しやすいので、今後の発生に注意して適期に防除を実施する。
 - ・防除指針 155, 157ページ参照

5 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：並～やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・これまでの発生量は並～やや少なかった。
- (3) 防除対策
- ・発病した果実や葉は二次伝染源となるため見つけ次第除去し、適切に処分する。
 - ・殺菌剤の散布間隔が開きすぎないようにする。
 - ・収穫期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
 - ・防除指針 163～166, 169ページ参照

6 ニホンナシのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- 【多発要因】
- ・フェロモントラップによる6月5半旬～7月4半旬の誘殺数は3.0頭で平年（1.2頭）よりやや多かった。
- (3) 防除対策
- ・昨年発生の多かった園地や今後発生の見られる園地では、防除を実施する。
 - ・8月以降は交信かく乱剤を追加設置する。
 - ・収穫期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
 - ・被害果は見つけ次第、園地外で処分する。
 - ・防除指針 163, 166, 167, 170, 171ページ参照

7 ニホンナシのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ これまでの発生量は平年並であったが、8月の気温は平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
- ・ 草刈り後に防除を実施する。徒長枝を切除する等、薬剤到達性を向上させる。
 - ・ 収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
 - ・ 高温で発生が急増しやすいので、今後の発生に注意して適期に防除を実施する。
 - ・ 防除指針 168, 170, 171ページ参照

8 ブドウのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠
- ・ これまでの発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
- ・ 収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
 - ・ 防除指針 173～175ページ参照

9 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠
- ・ フェロモントラップによる5月6半旬～6月4半旬の誘殺数は4039頭で平年（1353頭）より多かったが、6月5半旬～7月4半旬の誘殺数は130頭で平年（447頭）よりやや少なかった。
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 178, 180, 181ページ参照

10 モモのモモハモグリガ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠
- ### 【少発要因】
- ・ フェロモントラップによる6月5半旬～7月4半旬の誘殺数は16頭で平年（208頭）より少なかった。
- (3) 防除対策
- ・ 収穫終了後に防除を実施する。
 - ・ 防除指針 183～186ページ参照

V 花き・球根

1 きくの黒斑病・褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 7月25日調査の被害株率は0%で、平年(3.9%)より低かった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 202 ページ参照

2 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ アブラムシ類有翅虫の7月1半旬～5半旬の黄色水盤への誘殺数は212頭で、平年(274頭)よりやや少なかった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 199～224ページのアブラムシ類の項参照

3 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：並～やや少ない
(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる6月6半旬～7月5半旬の誘殺数はタバコガが18頭で平年(31頭)よりやや少なく、オオタバコガは24頭で平年(29頭)並であった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 208～228ページのタバコガ、オオタバコガの項参照

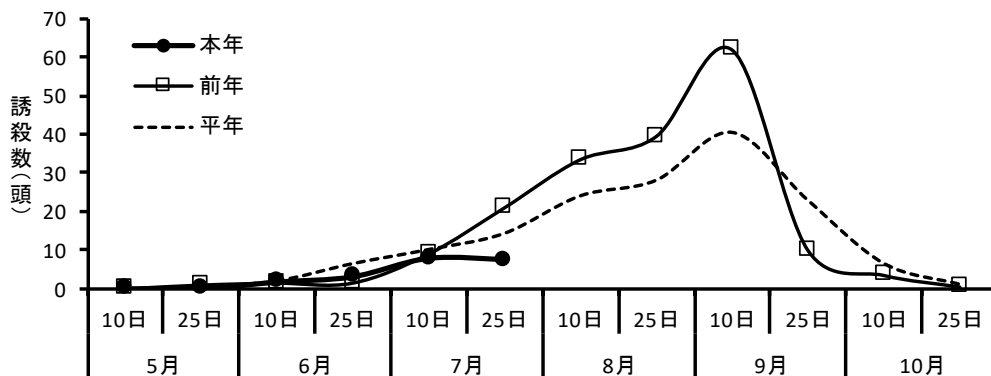


図9 タバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

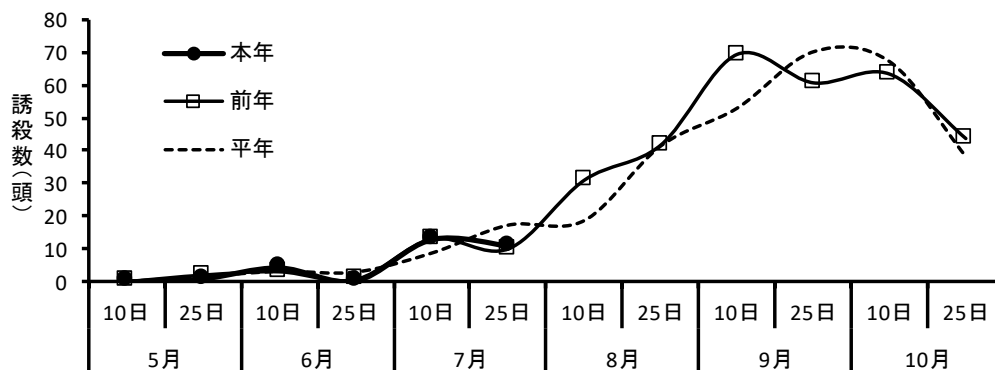


図10 オオタバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

4 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・タマナヤガのフェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数は36頭で、平年（36頭）並であった。
- ・カブラヤガのフェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数は102頭で、平年（106頭）並であった。

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植前に刈り取る。
- ・定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針 208～225 ページのネキリムシ類の項参照

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

農薬は適用作物以外に使用できません。

また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組が必要です。風向き等に気をつけるなど飛散防止への注意を払いましょう。

さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

北陸地方 3か月予報

(8月から10月までの天候見通し)

令和元年7月24日
新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

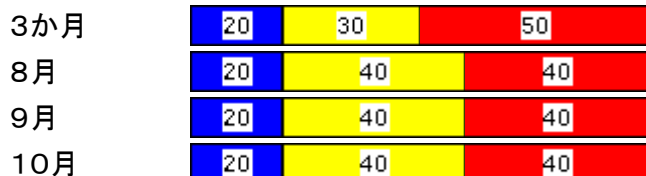
9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

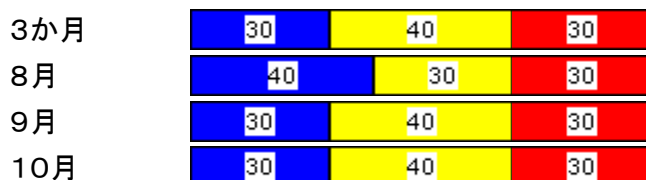
【気 温】

[北陸地方]



【降 水 量】

[北陸地方]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)